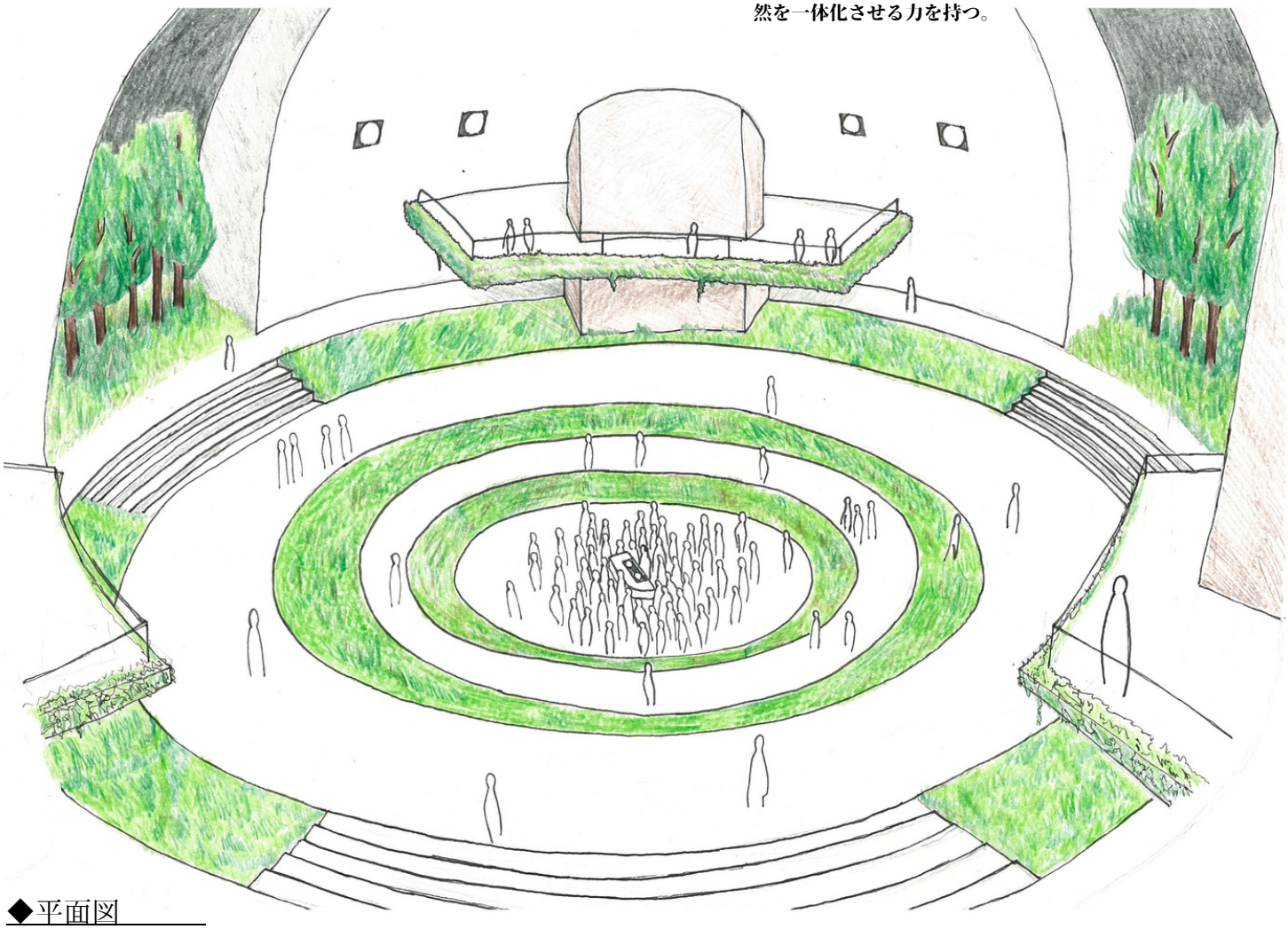
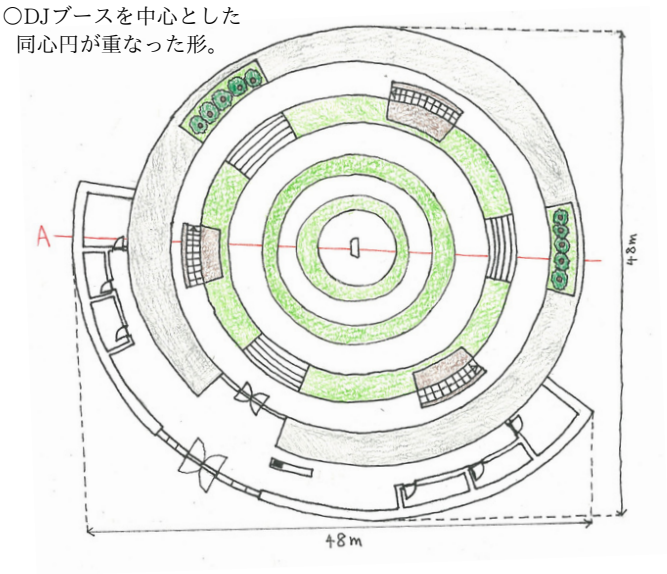
ステージの存在しない広場的野外クラブ

権威的なステージを排除し、演者と客が同じグラウンドレベルに立つことを実現させた野外クラブ。演者と客だけでなく、人間と自然を一体化させる力を持つ。



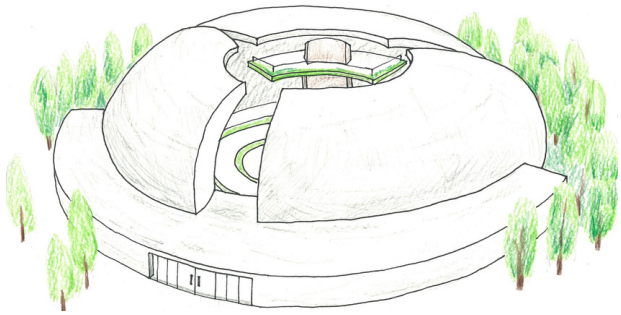
◆平面図

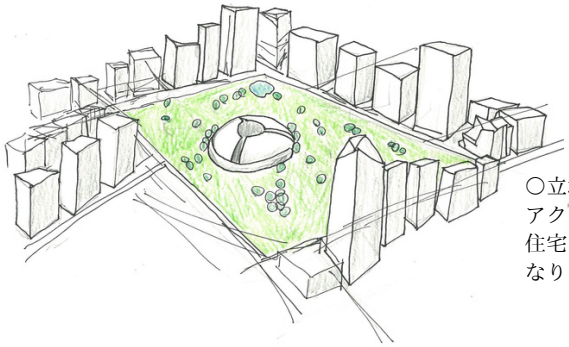
○DJブースを中心とした
同心円が重なった形。



◆外観

○完全には閉じないドーム型。
昼は光が差し込み、夜は光が漏れる。

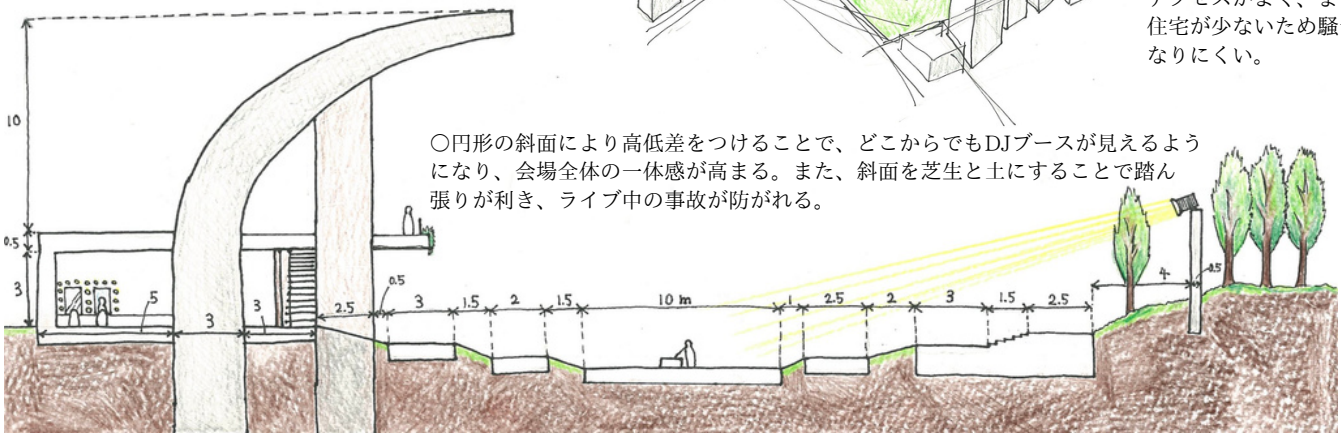




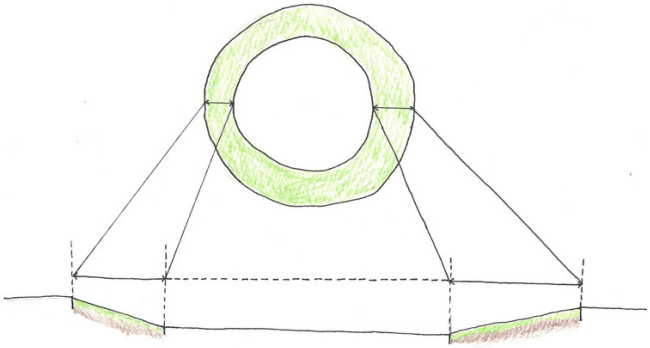
○立地は都心の公園の中。
アクセスがよく、また周りに
住宅が少ないため騒音問題に
なりにくい。

上図Aでの断面図

○円形の斜面により高低差をつけることで、どこからでもDJブースが見えるようになり、会場全体の一体感が高まる。また、斜面を芝生と土にすることで踏ん張りが利き、ライブ中の事故が防がれる。

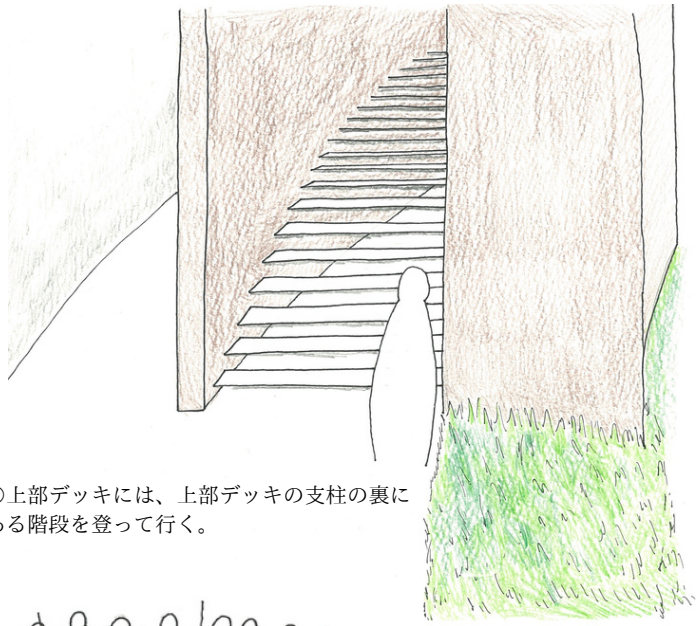


◆斜面の勾配



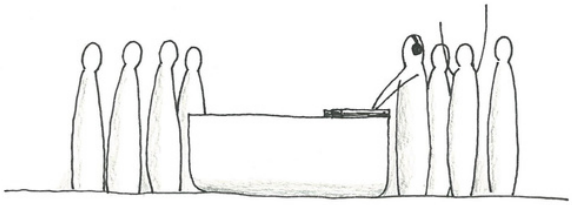
〇厳密には同心円ではなく、わずかに中心がずれている。これによって、斜面の勾配が場所によって変わっている。

◆階段

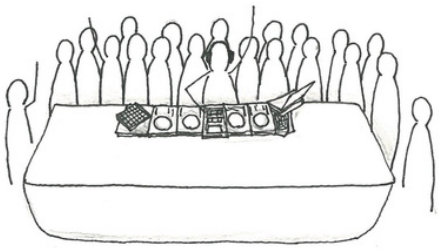


〇上部デッキには、上部デッキの支柱の裏にある階段を登って行く。

◆演者と客



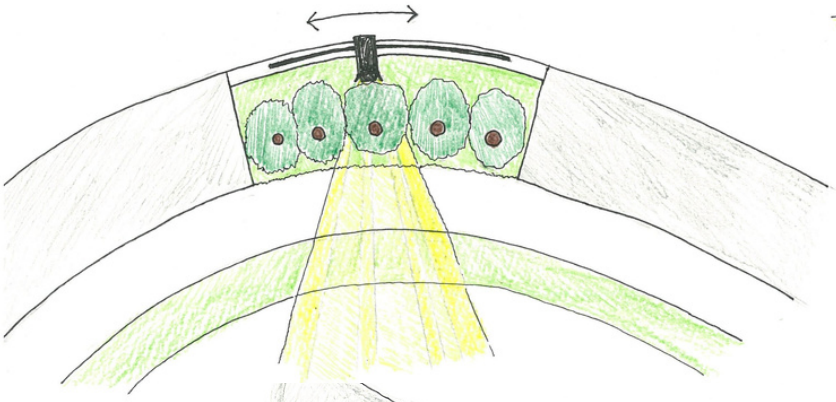
〇演者と客の間にグラウンドレベルの差は無く、演者を見れば、必ず客も視界に入る。すなわち、客もパフォーマンスを作る重要な要素となっている。



〇少し上から見てみるとその"一体感"はより分かりやすい。上部デッキから見れば、中心部は一つの群衆となっている。

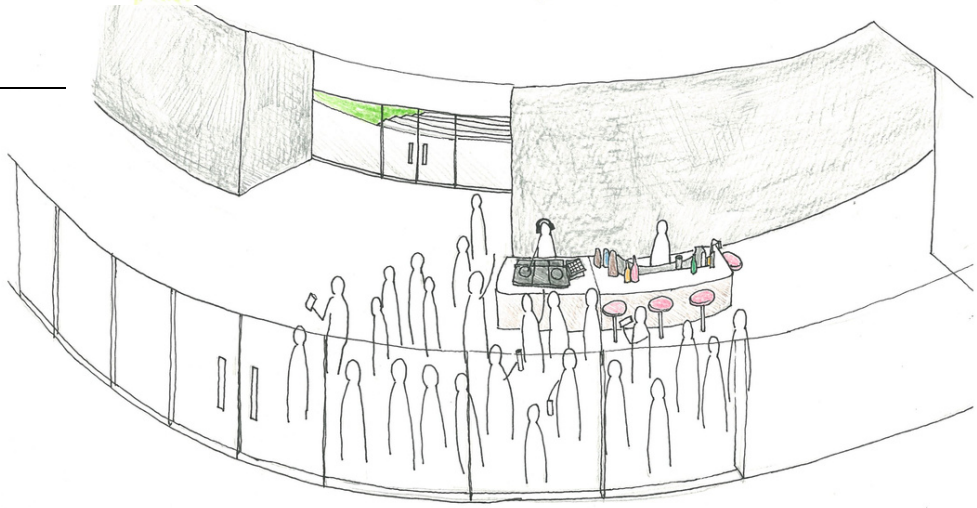
◆可動式の照明

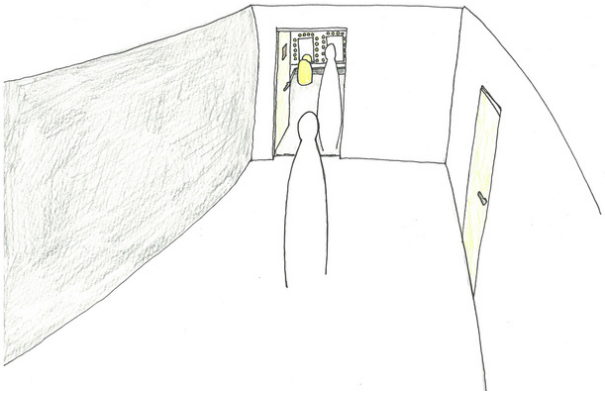
〇平面図中のアーチの間に5本の木が植えられているのが分かるだろうか。この背後にはアーチ状のレールがあり、その上に可動式の照明が取り付けられている。この照明が動くことで、木から会場に差し込む光が変化する。これがミラーボールの働きをするのである。



◆入り口付近のDJブースとバーカン

〇入り口付近にはDJブースとバーカン（バーカウンター）があり、これは開場前の待ち時間を盛り上げたり、イベント後のアフターパーティで使われたりすることを想定している。やはりここはただのライブ会場ではなく、クラブなのである。また、入り口付近がガラス張りになっているため、このDJブースは外からも見え、DJに馴染みがない人にもDJに触れる機会を与えている。





◆通路

〇入り口から見て左右に伸びる通路は、楽屋、化粧室、倉庫に繋がっている。通路の壁にはドームの側面が現れている。普通のライブ会場とは異なり、基本的に演目の間に休憩は無く、また客が一斉に帰ることはあまりないので、比較的小規模な化粧室となっている。また、演者が楽屋から会場に行くのに専用の通路などは無く、演者も客も同じ通路、出入り口を使う。